



第29号



HAI



KEI



SHIN



BUN



この広報誌は地球にやさしい再生紙を使用しています。

発行日 平成15年10月1日
発行 社会福祉法人 和歌会
〒441-1318 愛知県新城市
八束徳字天王032番地の2
TEL(0536)2-0760
<http://www.wakyokai.or.jp/>



50年の笑顔



理事・評議員
水谷 政義



理事・評議員
戸松 新暁



理事・評議員
水谷 清



常務理事・評議員
片桐 昭雄



評議員
名倉 玲子



監事
中居 文子



監事
春日井正雄



理事・評議員
伊野 一彦



評議員
鈴木 庄一



評議員
松崎 和夫



評議員
本多 克弘



評議員
田村 幹洋



評議員
平松 匡二



評議員
石田 正人



評議員
加藤 隆博



評議員
服部 匡博

社会法人和敬会 理事・評議員紹介



社会福祉法人 和敬会

創設50周年を迎えて

老若男女関わらず人には人の「こころで

社会福祉法人和敬会 理事長 太田 一平



社会福祉法人和敬会が、創設50周年を迎えました。創設者太田順一郎と松枝が「家無き子らのために」と心血を注いで取り組んだ八楽児童寮の歴史が50年を迎えました。長年にわたり多くの皆様にご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

昭和28年、太田順一郎とその妻である松枝が父親の経営していた紡績工場を急ぎよにわがじためたの施設に改造し、寮長夫妻の間に5つの可愛い頭が枕に並べられ寝起きをしたのが「八楽児童寮」の始まりでした。

紡績工場の改造費の支払いがまだ半分も済んでいない頃、故太田順一郎は、突然、寮舎をすべて取り壊して、3軒の子どもの家を建てると言いだしました。

「子どもは家庭で育てられるべきである。」「そんな子育ての信念を抱き、より家庭に近いより家族的な「家」が子ども達に必要なと考えたからであります。

子どもの幸せを願い、当時としては思い切った決断により、ものみことに寮舎は取り払われ、家づくりがスタートしました。これが、まぎれもなく今日の「八楽児童寮」の児童処遇理念であります。この精神こそを私たちは忘れてはならず、引き継いで行かねばならないと考えています。

また、平成8年には、長年育んで参りました「福祉の理念」を基に、新しい豊かな21世紀の福祉社会の創造をめざして額田郡幸田町に特別養護老人ホームまどかの郷を開設致しました。



これからの和敬会

今日における社会福祉事業は、社会福祉基礎構造改革以来、戦後50年にわたる救済対策という色彩の強い社会福祉制度から転換して、サービス利用者の個人の尊厳を大切に、その人にふさわしい支援をしていくという理念を明らかにした大きな制度改革がなされました。

今、社会福祉法人和敬会には福祉サービスの担い手として地域福祉の積極的な推進にあたり、地域のための新たな役割や機能を果たしていくことが強く求められています。時代とともに福祉に対するニーズや期待が大きく変化する中、常に理念を大切に変わりゆくニーズに対応し先駆的な取り組みをもって社会貢献していく創造性のある社会福祉法人和敬会を目指し取り組みなければなりません。理事会・評議員会の役員始め八楽児童寮・まどかの郷の職員一人一人の英知を結集し、未来を創造する次代の社会福祉法人和敬会像を構築していく所存でございます。今後ともより一層の指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



半世紀も前に、故太田順一郎（父）・松枝（母）が創設した社会福祉法人和敬会をいま太田一平 理事長（兄）と共に一人で継承している。俗に言う二世であるが、父から母へそして息子へと受け継ぎ三代目である。

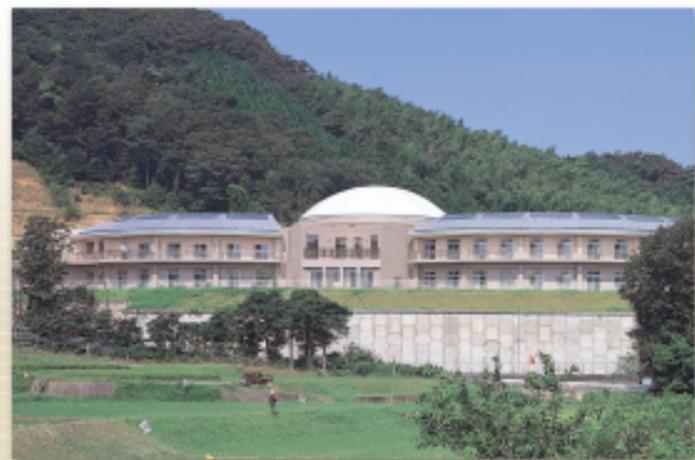
施設長あいさつ

まどかの郷 施設長 太田 二一郎



沿革

- 昭和28年10月 創立者太田順一郎の私財を基本財産として社会福祉法人和敬会を創設。養護施設八楽児童寮が事業開始。入所定員30名で発足。
- 昭和29年9月 ときの厚生大臣草葉降円氏を迎えて東郷東小学校を会場に開所式挙行。
- 昭和30年9月 子どもと職員の労力で浴室を建築しようとの計画を立て、手づくりのブロック1,000余個を製造。これが映画になったことから自衛隊豊川部隊の応援を得ることになり浴室・調理室等完成。
- 昭和32年4月 民間優良施設として御下賜金拝受。
- 昭和33年4月 2年連続して御下賜金拝受。
12月 大寄宿舍制の建物をとわし小舎制(家庭舎)に改革。年賀葉書寄付金等によりブロック造りの家庭舎3棟完成。
- 昭和34年1月 隣接地を買収し運動場を拡張させる。
- 昭和39年9月 小舎制にあきたらず、分散制の理想を求めて町の中に新小舎“丘の家”を創設。共同募金と卒業生の協力により完成。入所定員40名となる。
- 昭和42年4月 みたび御下賜金を拝受。
- 昭和43年4月 ボーイスカウト活動開始。翌年新城第2団として承認される。
- 昭和45年3月 日本自転車振興会の補助金等により、第5家庭舎、“店の家”が完成。これで各家庭舎10名が8名となり、より密度の濃い養育をめざす。
11月 初代理事長 太田順一郎病気のため死去。若い親が幼児を残して蒸発し、家庭崩壊が急増。小人数で密度の濃い養育をめざし、入所定員55名となる。
12月 理事長・寮長に太田松枝就任。
- 昭和49年2月 日本船舶振興会の補助金等により、管理棟増改築工事完成。
- 昭和57年11月 国庫補助による小舎改築工事のため“鳥・花・魚”の3小舎を解体。
- 昭和58年5月 ついに“丘の家”を解体。創立30周年記念式、児童家庭舎“鳥・花・魚・丘の家”改築工事竣工式、創立者 太田順一郎胸像除幕式、鼓笛隊結成10周年記念挙行。
- 平成 3年9月 国の“不登校児童特別指導事業”の認定を受ける。セラピストを配置し不登校児への専門的対応をめざす。(当初年度全国で12ヶ所)
- 平成 4年10月 国の“養護施設分園型自活訓練事業”の認定を受ける。昭和39年分散小舎制の理想を追い求めスタートさせた一軒の小舎“丘の家”が30年の月日の流れを経て国の政策となり、その認定を受ける。(当初年度全国で18ヶ所)
- 平成 6年3月 愛知県補助金・中央競馬馬主社会福祉財団の助成金を受け八楽児童寮を退所した児童のための退所児童支援施設“カルムの家”完成。
- 平成 8年4月 子育て支援短期利用事業開始。地域の子育て支援のためにショートステイ事業・トワイライトステイ事業を開始。幸田町内に特別養護老人ホーム“まどかの郷”(定員80名)デイサービスセンター・在宅介護支援センター・ケアハウス(定員15名)を開設。
- 平成10年1月 二代目理事長・寮長 太田松枝病気のため死去。(勲六等宝冠章を拝受)
3月 三代目理事長・寮長 太田一平就任。
- 平成12年4月 施設から3km程の市内にグループホーム“杜の家”を開設。介護保険法施行に伴い居宅介護支援事業所・訪問介護事業所を新設するとともに通所介護支援事業所の定員が30名に増員。
- 平成14年4月 施設から6km程の市内に二軒目のグループホーム“陽の家”開設。通所介護支援事業所を定員35名に増員。
- 平成15年4月 福祉用具貸与事業所を開設。



50周年の あゆみ

50周年を迎えて 八児会 会長 立岩 征弘

社会福祉法人和敬会50周年を心よりお祝い申し上げます。
社会福祉法人和敬会の50年の歩みは八楽児童寮の歩みでもあり、早いもので半世紀にも及ぶ歴史が刻まれたかと思うと感慨深いものがあります。
私が八楽児童寮にお世話になったのは創設期の昭和30年からでした。



当時の暮らしは生きることに必死、食べることに必死、働くことにも必死で、何もかもが必死でした。親父故太田順一郎とお袋(故太田松枝)が必死で和敬会を創設し、八楽児童寮を創っていく姿を私も子どもながらに見つめていました。故に親父もお袋も早死にしたのだと思います。人がみな必死で生きていた時代を経て、いま50周年を迎えることができたことを全国各地に散っている八児会の会員共々喜びを申し上げたいと思います。

ボランティア感謝状

長年にわたりボランティア活動に携わっていただきました特別な皆様に感謝状を贈呈させていただきます。

社会福祉ひろめ会様
昭和58年より子どもたちの旅行費用をサポートしています。ナガシマスパーランドや明治村などへ出かけ楽しい思い出をたくさん作りました。

スエヒロ扇会様
平成5年より夏休みは八楽旅行クルーズには豪華なクルーズ会を企画していただいています。子どもたちはその時期が来るソノソノワクワクと楽しみにしている行事です。

伊藤 忠志様
昭和55年から行われている行事かつばの里で多くのボランティアさんをまとめていただき釣りや魚のつかみどりなどに協力いただいています。初代寮長の代からお付き合いいただいており、気さくなお人柄で子どもたちは「坊おにいさん」と呼んでいます。

かつばの里、高岸 英陽様
平成10年からかつばの里として鳳来町名島のヒマにマランドをご提供いただいています。川遊びや釣り、新緑の中のハイキングなど春の楽しい行事の一つとして子どもたちは楽しみにしています。

今泉 忠夫様
30年来のお付き合いになります。横浜ゴルフカルの会の代表として盆踊り大会、エキバンド、リッチパーの名ドラマー、ソフトボール卓球のコーチなどいろいろな場面で協力いただいています。年末のもちつきにも力をお貸しいただき、おいしいお餅をつくってください。



細井 せつ様
藤川 桂子様

10年以上に亘る長い間、毎月1回散髪に来ていただきました。散髪を嫌がる小さな子どもや、注文の多い中学生等、苦勞をおかけしたことを思い、すがいもきれいにさせていただきました。

田原民生交友会様
昭和55年から15年間海水浴にご招待いただき、夏休みの大きな行事の一つとして子どもたちは楽しみにしていました。また、年末の五平もち忘年会にも参加いただき一緒に五平もちを食べながら楽しい時を過ごしました。

瓜生 智様
田原民生交友会として海水浴にご招待いただき、また、子どもたちのためにたくさんのお寄付も頂戴しました。

金田 明人様
伊藤 富男様

昭和58年八楽ソフトボールチームは横浜ゴムのソフトボール選手として活躍されていた金田コーチ、伊藤コーチを迎えました。夏の暑さの中での厳しい練習に耐え、技術と共にチームメイトの大切さやあきらめない気持ちを教えていただきました。東三大会、夏季鍛錬会で成果を発揮し、数多くの優勝を飾りました。

岩瀬 義和様
影目 全宏様
岩瀬コーチは昭和56年から影目コーチは58年から八楽卓球チームのコーチとして指導いただいています。仕事を終えられてからの暑い集会所での熱気あふれる指導に子どもたちも真剣に練習をしました。おかげで東三大会、夏季鍛錬会で多くの優勝を飾り、子どもたちは大きな自信をつけることができました。

山本 勝康様
昭和41年からそろばん教室、ギター、パーティーをたくさんボランティアの方々と共に催していただき、長いお付き合いとなりました。初めてお会いする子どもでもすぐに打ち解けてしまつほど陽気で楽しくご夫妻のお人柄です。お盆、正月にはボランティア里親もお引受けいただき、子どもたちを家族の一員として迎えていただいています。

鈴木 健様
毎年クルーズのサンタ訪問に合わせてお得意のマジックを披露いただいています。不思議なマジックの種を教えてください。不思議なマジックはみんな大喜びです。ほかに集会所に飾らせていただいている絵画や子どもたちに八楽の付近の歴史をお話いただき、多彩な趣味をお持ちです。

サークルオンチ様
カーデンパーティーを歌やゲームで盛り上げてくださいました。平成11年から多くのボランティアの方々を中心に白谷海水浴場へご招待いただき、夏休みの楽しい行事の一つとなっています。

西村 範雄様
昭和47年鼓笛パトーン隊を結成した際に最初の指導に当たってくださいました。その後、鼓笛パトーン隊は東三体育大会、音楽の集いなど様々な場面で活躍しました。

土岐 将克様
学生の頃より来賓いただいています。その後現在まで毎年12月にクルーズケーキを持って来て下さるサンタクロースです。

日野仙一郎様
初代理事長の友人として公私共にご協力いただき、ご寄付いただく球根は毎年花壇を美しく彩っています。

細川積善社様
昭和35年より子どもたちの福祉の為にご寄付を頂戴し現在に至っています。

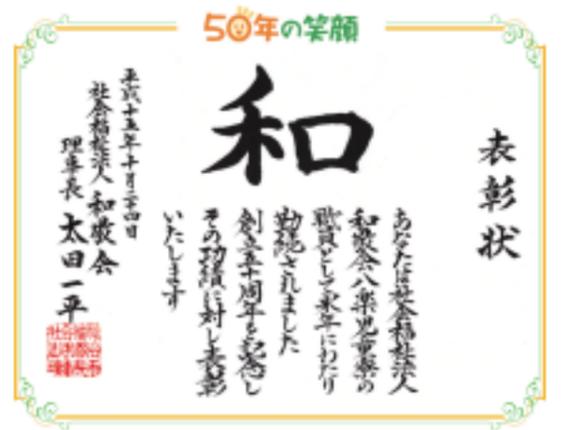
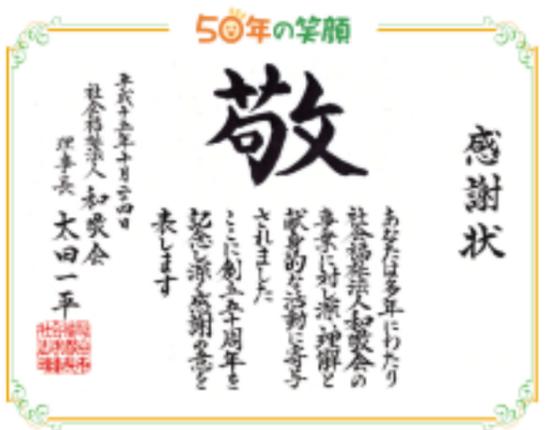
奥三合様
平成3年11月から毎月1回、庭木の選定、草刈りなど環境整備にご協力いただいています。

渡辺 敏子様
御主人の故渡辺武一先生と共に長年八楽の嘱託医として子どもたちの健康にご尽力いただきました。

幸田町民生児童委員協議会
代表 平松 匡一様
地元民生児童委員協議会として、開所当時よりまどかの郷をボランティア活動の拠点として、禮物・レクリンショ

ボランティア感謝状

長年にわたり八楽児童寮・まどかの郷で献身的にボランティア活動に携わっていただきました特別な皆様にささやかではありますが、社会福祉法人和敬会より感謝状を贈呈させていただきます。



永年勤続表彰

志を胸に、自らのめざす信念を携えて八楽児童寮・まどかの郷で日々養育に介護に携わる職員として永年勤続された職員の皆さんを社会福祉法人和敬会は感謝と敬意をもって感謝状の贈呈をさせていただきます。

ン等の活動を行っています。また、恒例のまどかの郷夏祭りにも毎年参加していただいています。

幸田町生活学校
代表 桑門 淳子様
まどかの郷開所当初より第3木曜日「喫茶ありあ」を開催しています。生活学校会員の皆さんがPTTを入れ、工房姿で入所者の待つテーブルまで運んでくれると皆様に笑顔がこぼれます。

また、クルーズ会も生活学校の皆さんと一緒に行列し、楽しいひとときを過ごしています。平成13年度には愛知県社会福祉大会でまどかの郷での活動が認められ感謝状が贈られました。

幸の風様
幸の風のメンバーは決して多くありませんが、いままでは花壇づくりや売店、床屋に至るまで大活躍、活躍していただいています。

妻の会様
年4回定期的にまどかの郷を訪問し、「民謡・舞踊」を披露していただいています。芸達者なメンバーが多く、まどかの郷での舞台はいつも時間が足りないくらい盛りだくさんの内容を用意してくれています。

民謡じゃがいもの会
代表 中根 松良様
「桜吹雪公演」「七夕公演」「紅葉公演」「師走公演」と、年4回まどかの郷のふれあいホール舞台上で民謡・舞踊等の慰問活動を続けています。それぞれに



幸田町立豊坂保育園様
異世代間交流を合言葉に、ひ孫のような子どもたちと入所者との交流は始まりました。入所者との交流は子どもたちにとって新鮮な様です。入所者は園児から「おねえちゃん」をもちっています。

幸田町立幸田中学校様
幸田町立南部中学校様
幸田町立北部中学校様
毎年夏休みに社会福祉協議会が実施する「青少年ボランティア体験学習事業」にいずれの学校も参加され、1校当たり延べ100名以上の生徒がまどか

ヒハロー研究会
代表 山科 知瑞様
幸田町内にある玄好寺の檀家の皆さんでつくるボランティアグループ。まどかの郷では主に喫茶のお手伝いをしていただいています。

八楽児童寮永年勤続職員
このたび50周年を迎え、永年勤続表彰を受賞される皆さんは次の方々です。おめでとうございます。

- 藤 トシ子 「保育士」昭和45年1月20日採用(33年)
- 藤 久子 「事務員」昭和48年4月1日採用(30年)
- 加 古昌子 「保育士」平成3年4月1日採用(12年)
- 草 田良子 「栄養士」平成5年4月1日採用(10年)
- 内 藤 トシ子 「保育士」昭和45年1月20日採用(33年)
- 斎 藤 久子 「事務員」昭和48年4月1日採用(30年)
- 加 古昌子 「保育士」平成3年4月1日採用(12年)
- 草 田良子 「栄養士」平成5年4月1日採用(10年)
- 大久保 茂 「総務主任」平成8年4月採用
- 今 泉 雅博 「介護主任」平成8年4月採用
- 池 田 恵子 「給食主任」平成8年4月採用
- 鳥 居 知宏 「在宅主任」平成8年4月採用
- 岩 瀬 智洋 「A棟責任者」平成8年4月採用
- 清 水 澄子 「介護支援専門員」平成8年4月採用
- 松 野 有里 「介護支援専門員」平成8年4月採用
- 内 山 裕文 「事務員」平成8年4月採用
- 濱 野 夕工 「調理員」平成8年4月採用
- 竹 下 幸子 「寮母」平成8年4月採用
- 田 所 貴行 「介護職員」平成8年4月採用
- 近 藤 明城 「福祉用具相談員」平成8年4月採用



椿の会様
定期的にまどかの郷へ訪れ、主に「ミニショー」の取りにくい痴呆老人の対応を積極的に行っていただいています。人との付き合いのなかで入所者は疎外感が薄れ、社会性を培っていくことができている。

MADOKA-NO-SATO

HACHIRAKU CHILDREN'S HOME



社会福祉法人和敬会50周年を迎えるにあたり、多くの人々から温かいメッセージが届けられました。本当に多くの人から・・・そして各地から・・・ありがとうございました。社会福祉法人和敬会にお寄せいただきましたアニバーサリー・メッセージを私たちは「心の花束」として受け取りました。私たちはこんなにも多くの皆様から熱いメッセージをいただき、勇気が湧きました！。励まされました！。そして、何より温かい気持ちになりました！。この気持ちを子どもたちへそしてお年寄りへとおすそわけしていきたいと思ひます。

八楽児童寮 元職員
吉岡 雅子

創立50周年おめでとうございます。時代が変わり子供を取り巻く環境も随分変わり、職員の皆様も日々奮闘されていることと思います。それでも八楽児童寮の養育理念だけはいつまでも変わらず、多くの子供達を笑顔に励みに素敵なお姉さんお兄さんになってください。

つばさ共同保育園

つばさ保育園が八楽児童寮の子ども達とであえたことはとても素敵なこと、スタッフ同うけとめています。子どもが育っていく上で何が大切かを深く学ばせてもらっています。児童寮のスタッフの方達と子ども達の生きてゆく土台作りのために力を合わせて、日々学びながら生活してゆきたいと思ひます。

八楽児童寮 元職員
茶畑 由理

「くすくす」と笑顔がこぼれる そんな瞬間が何より好きでした。泣いた顔が笑います。怒った顔も笑います。笑顔が笑い声を運び、優しさが育まれます。一人ひとりの笑顔は力不足の私に贈られた最高のプレゼント。そして一生の宝物。お父さんお母さんますますのご躍進を心よりお祈りいたします。

特別養護老人ホームアール南海 生活相談員
村田麻起子

こどもたちとお年寄り安心できる暮らしを提供し続ける50年。それは1日1日の積み重ねの50年です。利用者スタッフで培ってきた歴史であり、伝統です。21世紀大きく社会が変化しています。それに伴って福祉という概念も、与えられる幸せから社会で当然保障されるべき、生きる権利、与えらるべき権利と変わってきています。社会に求められることそれに応える使命が私たちスタッフにはあると感じます。障害があっても、老いても若くても、全ての人たちが人権ある人として尊重される暮らしの実現に向けてともに歩んでいきたいと思ひます。

特別養護老人ホーム空園 施設長
栗野 裕治

社会福祉法人和敬会の創立50周年を迎えられ心からお祝い申し上げます。太田施設長には、21世紀高齢者介護社会を担う若手リーダーの人として幅広く活躍されることも、今後貴会が益々ご発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

「聖・輝きの郷」施設長
斎藤 竜哉

開設50周年を迎えられましたこと誠にめでたくございます。貴施設が高齢者の福祉の向上に多大な貢献をなされ輝かしい歴史を築いてこられたことに対し、心より敬意を表する次第であります。関係者各位のご活躍と貴施設のますますのご発展をお祈り申し上げ、50周年記念誌のお祝いの言葉といたします。

八楽児童寮 卒業生
高田 善之

50周年おめでとうございます。僕はこの八楽で近所の家同士が家族のように温かく接するという生活を送り、身体だけでなく心もすくく成長したと思ひます。いつまでもこの温かな場所を守ってほしいです。

八楽児童寮 元職員
古宮 月子

創立50周年おめでとうございます。私は50年という八楽の長い歴史の中の7年という時間を子ども達と過ごさせて頂きました。7年という間にはうれしさと楽しいこと、つらいこと、悲しいこと、色々ありましたが、今の自分があるのは八楽のおかげだと思ひます。いつまでも子どもたちのための場所であってほしいです。

八楽児童寮 ボランティア
今泉 幸子

みどり豊かな丘の上に元気な子ども達が集う半世紀！誠におめでとうござります。婦人会の慰問で母に連れられ初めて訪問中学で寮生の仲良しと遊ぶ。母となつてから幼児さんに絵本の読み語りを通い、思い出せば50年です。

指定介護老人施設緑ヶ丘ハイム 施設長
米澤 洋子

祝 創立50周年
日本の社会福祉界のリーダーとして、貴法人の益々の活躍と発展をお祈りいたします。黒松内つくし園も3年後には記念すべき50周年を迎えます。偉大なハイムスタッフ達の輝かしい歴史と足跡に敬意をこめて北海道より乾杯！！

八楽児童寮 卒業生
倉田 宗典

50周年おめでとうござります。僕は、八楽や職員の皆様のおかげで沢山の思い出を作ることができました。施設にいる人は、それぞれ事情があると思ひますが、それを忘れて楽しい生活ができる場所をこれからも守ってほしいです。

八楽児童寮 卒業生
佐藤 智子

50周年おめでとうござります。卒業してからもますますお世話になっています。2ヶ月に1度、八楽に帰っておいしいご飯が食べられるのがうれしいです。いつもありがたうござります。これからもよろしくお祈りいたします。

ケアハウスまどか入居者
宮田登喜子

和敬会創立50周年を迎えられケアハウス一同御祝の御慶びを申し上げます。半世紀の歩みの基礎を築かれた太田順一郎氏御夫妻の偉大さに感動しました。子供たちには夢と勇気、高齢者には生きがい、未来に夢ふくらませ、和敬会の御繁栄をお祈りします。

ケアハウスまどか入居者
岡田 喜一・みや子

本年5月3日夫婦で、ケアハウスまどかに入居許可を頂き現在に至りました。屋内外に亘り空気が綺麗なのが嬉しいです。職員の方全員が礼儀正しく凄く気がいいです。お仲間とも仲良しになりました。くらしの定まりは守ります。

まどかの郷 元職員
鈴木 芳子

祝50年！
一環して人と自然と地域を大切に、夢を追い求める和敬会に感謝致します。職員、利用者の皆様と共に過ごせたこと、本当にありがたうございました。感動する瞬間と心を大切に。さらなる発展を願っています。

まどかの郷 元職員
渡辺 智子

創立50周年おめでとうござります。これまで幾多の苦労があったと思ひますが、スタッフの努力とがんばりで50周年というめでたい年を迎える事ができたのだと思ひます。今後の益々のご繁栄をお祈りしています。

まどかの郷 元職員
岩瀬 梢 (旧姓 平松)

創立50周年おめでとうござります。縁あって、3年間、まどかの郷で働かせていただきました。3年間はあっという間でしたが、忙しい仕事の中で利用者のおみせしてくれる笑顔が、私の一番の思い出です。これからもまどかを利用される方々が、毎日笑顔で過ごせるような施設であってほしいと思ひます。

まどかの郷 元職員
鳥居 恵

老若男女問わず、不安な世の中ですが、ほろとできて頼りになる和敬会であり続けて下さい。

まどかの郷 元職員
今泉 孝枝

社会福祉法人和敬会様50周年おめでとうござります。その歴史の中で、私は特別養護老人ホームまどかの郷の開所時から縁あって働かせていただきました。思い出の中で、敬老の日の行事、食べりヒックで、八楽児童寮の子供達がまどかの郷に来てお手伝いをする風景に感動を受けました。「人と人がまあるくお付き合いする」。これからも、子供からお年寄りまでが、互いを尊重し、助け合える。そんなまどかの郷和敬会であって下さい。

デイサービスセンター利用者
小山 泰恵

まどかの郷にお世話になり1年がたちました。初めての集団生活で不安でしたが職員スタッフの皆様方のお陰で少しずつ仲間の人達に受け入れられる様になりました。年を重ねる度に体も弱り御迷惑をおかけする事と思ひますが、一日でも楽しい老後を送ってほしいと願っています。創立50周年を心からお祝いいたします。

デイサービスセンター利用者
酒井 テル

まどかの郷は私にとって生きがいの場所です。お世話をして下さる方々の優しさ、こまかい気遣い、又、色々な事を教えていただき感謝しています。今は週一回お世話になっております。お礼を申し上げます。今後ともこのお世話を受け続ける事ができれば幸いです。

まどかの郷入所者ご家族
鳥居 俊之

この度は、創立50周年誠にめでたくござります。両親も平成11年より、まどかにお世話になりました。心こもったケアを賜り大変感謝しております。高齢化社会の進む現代、ますますのご発展をお祈り致します。

●●● 施設概況 ●●●

「まどかの郷」の老人福祉ワークとしては、介護保険サービス事業として、指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、指定短期入所生活介護事業所(ショートステイ)、指定居在介護支援事業所、指定通所介護事業所(デイサービス)、指定訪問介護事業所(ホームヘルプサービス)、指定福祉用具貸与事業所(レンタルサービス)などの役割を担っている。また、介護保険外サービス事業では、ケアハウス、在宅介護支援センターが用意されている。

課題

高齢化が進んでいる一方、高齢者人口の内約5%は障害(要介護)高齢者であり、また要援護(虚弱)高齢者では約20%を占めている。生活能力判定指数で2レベル以下の体力、またADL(生活活動能力)を失った高齢者達は要介護と認定され、家族による扶養が出来ない者には特別養護老人ホーム等が用意されている。このような高齢者に対しても、健康改善や行動範囲の拡張や人間関係を広げQOL(質的生活)を高めることが期待される。本研究では特別養護老人ホーム施設に入所する高齢者を対象とした運動指導が体力向上やQOLの向上に大切な構成要素である精神的・体力的また生活能力に与える影響を検討することとした。また、これらのことは、特別養護老人ホーム内で「寝たきり老人」の減少や自立能力の向上とともに施設側の介護負担の低減・他サービスの向上にも繋がると期待される。

具体的な取り組み

2003年1月24日から約6ヶ月間に週2回の定期的運動教室を行い、その前後調査と体力測定を実施した。対象者は特別養護老人ホーム入所者80人とケアハウス入居者15人を対象として運動指導を行った。痴呆などで理解できない者を除き、63名にアンケート調査を行った。また、体力に劣る者や寝たきり者を除き44名に対して体力測定を行った。

さらに、車椅子を使う22名をA群とし、歩行可能者で日常生活に自立できるが多少の障害がある22名をB群とした。



愛知教育大学大学院 歐陽 蓓

【発表経歴】

- ・第58回国民体育大会 日本体力医学会静岡大会にて発表(平成15年9月20日)
- ・フィットネス・サミット2003「学生優秀論文賞」受賞(平成15年10月26日)
- ・全国老人福祉施設研究会議/愛知・名古屋大会にて発表(予定)(平成15年11月25日・26日)

運動教室前後の測定は、A.アンケート:a. CES - D高齢者用抑うつ度の調査. b. 質問紙ADLテスト:[A群] 車椅子日常生活能力調査 . [B群] ADL調査(文部科学省) B. 体力測定:運動指導前と運動開始指導4・6ヶ月後に実施した。測定項目は握力、連続立ち上がり、上体起こし、座位体前屈、コーヒーポップ、6分間歩行、棒反応、10m障害物歩行であった。

運動指導内容:特別養護老人ホームは、フィットネスクラブのような高価な機械や多数の指導員を用意することができないことも考え合わせ、安全面に考慮するとともに効果があって楽しく続けることができる運動指導を心掛けた。運動は柔軟性や調整力向上を目的とした体操、リズム体操、PNF、太極拳、指の体操、主に歩行と起立能力の増加を目的としたレジスタンストレーニングやウォーキング、チューブトレーニング、車椅子移動のための腕力向上を目的としたダンベルトレーニング、持久力向上のためのダンス、エアロバイク、精神効果には、ゲームなどである。安全のために全員が椅子に座ったままで出来る運動を中心に行った。

活動成果と評価

在宅高齢者に比べ、特別養護老人ホーム入所者は明らかに体力は劣っていた。6ヶ月の運動指導により、運動機能ADLのアンケート結果に向上傾向がみられた(平衡系に33%、操作系に28%、移動系に19%の向上)。CES-D調査は精神面の健康チェックとして大切な意味を持ち運動指導前には、16点以上の要治療と考えられる高齢者は11名(20%)であったのに対し、6ヶ月後は7名(12%)に減少した。体力測定では、歩行可能者B群が6ヶ月後に全ての体力項目に有意な向上傾向がみられた。A群には有意に向上した項目は無いものの、ほぼ全ての体力項目の平均値に運動指導前より高い値がみられた。



今後の課題

特別養護老人ホーム入所高齢者においても、運動プログラムを工夫することにより運動への参加意欲は十分高められ、体力向上ばかりではなく抑うつの解消や日常生活能力の向上が期待できることが示唆された。また、A群には実験中に老衰や肺炎等の理由で5名の死亡者がいたが、このような後期高齢者を対象とした運動指導においても体力向上や生活意識の向上がみられたことは意義深い結果と考えられた。今後、医療・福祉関係者に加えて体育・運動指導の専門家も含めての老人福祉事業のあり方を検討していきたいと考える。

特別養護老人ホーム・まどかの郷

入所者に対する
運動指導の有効性

50年の笑顔



郵送の場合



今回の記事についての
感想や新コーナーのご提
案、近況報告など皆様か
らのお便りをお待ちして
おります。

FAXの場合
0536(22)0762
社会福祉法人 和教会
拝啓新聞編集室まで